

所信表明（令和3年第4回八潮市議会定例会）

私は、先の市長選挙におきまして、市民の皆様からのご信任をいただき、引き続き市政を担わせていただくことになりました。

市長という職責の重さと市民の皆様の大きな期待を感じ、改めて身の引き締まる思いでございます。3期目の任期につきましても、市民の皆様への負託に応え、八潮市のさらなる発展のために全力を尽くしてまいり所存であります。

さて、私はこれまで、「住みやすさナンバー1のまち 八潮」を目指し、「共生・協働」、「安全・安心」をまちづくりの基本理念としてきました。

2期目の4年間においても、この基本理念のもと、住みやすさナンバー1に向けた第二章として、ひと・暮らし・まちが健やかで元気な「先端健康都市」を目指して、市政を推進してまいりました。

しかしながら、昨年来の新型コロナウイルス感染症のまん延により、市民生活は大きな影響を受けることとなり、任期の後半は、市民の健康と暮らしを守るため、コロナ対策を最優先に取り組んでまいりました。

3期目においては、これまで進めてきた「教育文化・コミュニティ」、「健康福祉・子育て」、「防災・防犯・消防・救急」、「産業経済・観光」、「都市基盤・環境」、「新公共経営」の6分野の各施策を引き続き進めるとともに、コロナ対策はもちろんのこと、カーボンニュートラル、国土強靱化、SDGsやダイバーシティ等、これまでの取組に「安全」、「彩り」、「しなやかさ」を加え、「住みやすさナンバー1のまち 八潮」に向けて各分野で取り組みを進めてまいりたいと考えております。

一つ目に「教育文化・コミュニティ」の分野では、子どもたちに安全・安心で質の高い教育環境を提供し、明日の八潮を担う人づくりに努めます。

まず学校給食の問題については、二度と食中毒事故が起きないように衛生管理の徹底と食育の充実・強化に引き続き取り組んでまいります。その上で、本市の学校給食の在り方を見つめなおし、将来にわたり、安全・安心で持続可能な学校給食を実現するため、八潮市学校給食ビジョンを策定し、実現してまいります。

また、小中学校の学校体育館にエアコンを計画的に設置してまいります。これにより、子どもたちの教育環境の向上を図るとともに、いざというときの避難所機能としても有意義に活用してまいります。

さらに、子どもたちの基礎学力・体力の向上や習熟度学習制度の充実、いじめ問題への対応強化等、子ども達の心身の健全な成長に必要な施策を進めてまいります。

そのほかにも、「共生・協働」の視点から、多文化共生に向けた取組を進めるとともに、地域コミュニティの核となる町会自治会との連携や必要な支援などに努めてまいります。

二つ目に「健康福祉・子育て」の分野では、誰もが健康で、いきいきと住み続けられるまちづくりに努めます。

まずは新型コロナウイルス対策に最優先に取り組んでまいります。引き続き、国、県、そして地元医師会等と連携しながら、ワクチン接種を希望するすべての市民の皆様へ2回の接種、さらに3回目のワクチン接種を進めてまいります。

また、検査費用の助成や医療機関の支援、医療物資の調達等も積極的に行い、安心できる体制の構築に努めてまいります。

さらに、感染拡大が長期化したことによって生活に困窮されている方々に対し、各種の支援制度の周知徹底を行い、引き続き必要な支援を行ってまいります。

加えて、子育て世代包括支援センターの運営や産科の誘致、保育施設の計画的な整備や就学前教育の充実、フレイル予防の推進や八潮市地域

包括ケアシステムの構築等、妊娠期から老齢期まで、市内に住むすべての人が健康で住み続けられるような施策を引き続き進めてまいります。

三つ目に、「防災・防犯・消防・救急」の分野では、本市の基本理念である「安全・安心」の実現に向け、災害に強く、しなやかなまちづくりを目指します。

毎年、災害があたり前のように発生する昨今、いかなる災害が発生しようとも市民の生命を最大限守り、地域社会の重要な機能を維持する「強さ」が必要です。同時に生活経済への影響、市民の財産及び公共施設等の被害をできる限り軽減し、迅速な復旧ができる「しなかやさ」も持たなければいけません。これは単なる防災・減災対策だけではなく、庁舎、上下水道、情報等のインフラや、市民の心身の健康、災害教育や子育て環境の整備等、すべての分野に通じる考えであり、そうした考えのもと、八潮市国土強靱化地域計画を策定してまいります。

そして、計画に基づき、災害対策として、雨水管路の整備やポンプ場の改修、防災公園の整備等についても力をいれてまいります。

加えて、ゾーン30の整備や通学路の安全対策、道路照明灯の整備等も引き続き取り組んでまいります。

四つ目に「産業経済・観光」の分野では、農商工の活性化や新たなにぎわいの創出を目指します。

新型コロナウイルス感染症が落ち着きをみせてはいますが、引き続き感染拡大を抑えながら、同時に経済活動を再開していかなければなりません。地域経済が回復、成長を模索していく中で、国、県と連携して企業活動を下支えしていく必要があります。制度融資の見直しや、相談支援の充実等により、事業の継続や事業承継を含めた企業が抱える課題の解決を図ってまいります。

また、農業の分野では、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う飲食店の時短営業や外出自粛の影響による農作物の価格下落等を支援する

ための給付金の支給をはじめ、担い手となる後継者の育成、八潮産の野菜のブランド化、農業のスマート化を進め、農の活力が実感できる都市型農業を引き続き推進してまいります。

加えて、フラワーパークやT X八潮駅周辺の活性化等による新たなにぎわいの創出や、本市の観光資源の発掘、魅力の発信に引き続き取り組んでまいります。

五つ目に「都市基盤・環境」の分野では、持続可能な脱炭素社会の実現や地域特性を活かしたまちづくりを進めてまいります。

先般開催されたC O P 2 6（国連気候変動枠組条約第26回締約国会議）において、「世界の平均気温の上昇を産業革命前から1.5度以内に抑える努力を追求する」、「温室効果ガスの排出削減対策をしていない石炭火力発電の段階的な削減に向けた努力を加速する」などの内容が盛り込まれた成果文書「グラスゴー気候合意」が採択されました。

本市としても埼玉県東南部地域の5市1町で、気候変動を抑制するために「ゼロカーボンシティ」を本年4月に宣言しました。この宣言の実現に向け、市民への普及啓発や太陽光パネル設置等による自然エネルギーの利用拡大、市内企業の技術転換の支援等に努めてまいります。

また、本年8月に（仮称）外環八潮スマートインターチェンジが国土交通省の準備段階調査箇所に採択されました。今後、北部拠点の形成に向け、

外環八潮パーキングエリアの整備に合わせ、スマートインターチェンジや道の駅、アクセス道路も含めた周辺整備について、地元住民の方々とともに着実に進めてまいります。

さらに、八潮市地域公共交通計画に基づく事業の実施やM a a Sの推進、地下鉄8号線の延伸等、これまでの取組も引き続き進めてまいります。

最後に、「新公共経営」の分野では、SDGsやダイバーシティ、そしてDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進してまいります。

私はこれまでも「共生・協働」のまちづくりを掲げ、ひと、暮らし、まちの三つが健康であることを理想としてきました。これは、「SDGs(持続可能な開発目標)」の考え方ともまさに合致しており、引き続きこの考え方のもと各種施策を進めてまいります。

また、今後、住みやすさをいっそう追求していくためにも、様々な価値観や考え方を本市のまちづくりに積極的に取り入れていくことが必要です。パートナーシップ宣誓制度の導入や、多様性を認め、受け入れていくダイバーシティ社会を推進していくため、ダイバーシティ八潮・アクションプランの策定を進めてまいります。

併せて、DX(デジタルトランスフォーメーション)を進め、デジタルの活用により、一人一人のニーズを満たし、多様な幸せが実現できる社会を目指してまいります。

さらに、本格的な建設工事が始まった新庁舎についても、防災の拠点として、耐震性、安全性を確保するとともに、脱炭素社会に適合した将来にわたって市民にとって使いやすい庁舎を目指し、引き続き確実な工事の実施に努めてまいります。

これらの私が掲げた公約を実現させるためには、議員の皆さまをはじめ、市民の皆さまのご理解、ご協力が不可欠であります。

近年、国内でも地震や台風、豪雨等の災害が毎年のように発生し、世界的にも気温の上昇や人口の増加等により、干ばつや洪水をはじめとした自然災害が増加しております。我々の住む地球全体の環境が激しく変わってきています。

そうした中で、DX(デジタルトランスフォーメーション)やSociety 5.0(ソサエティ5.0)、カーボンニュートラルやゼロカーボン、ダイバーシティ、そしてSDGsなど、人々の考え方や価値観も大きく変容してきています。

このような変化に遅れることなく対応し、持続可能な「住みやすさナンバー1のまち 八潮」を実現していくためには、市役所のみならず、市民、企業、団体等、それぞれが多様な価値観のもと、一丸となって、一緒にまちづくりを進めていく必要があります。

八潮に暮らす皆様が「八潮に住んでよかった」と思えるよう、常に市民の皆様の声に耳を傾け、ご協力をいただきながら、全力で取り組んでまいります。議員の皆様をはじめ、市民の皆様の深いご理解とご協力を心からお願い申し上げ、これからの市政運営にあたっての私の所信の一端とさせていただきます。